



題字デザイン：原田泰治氏

9月5日(日)

発行所 長野日報社

〒392-8611 諏訪市高島3 0266-52-2000(代)

©長野日報社2021

私は、中学生の頃に剣道部に所属していました。剣道の試合は、一対一で行われます。また、武道は基本的に一対一で試合をすることが多いので、「チームプレー」とは無縁だと思っていました。ましてや弓道は完全な個人競技だと思って

高校図書館発



駒ヶ根工業・3年 橋場光希

いに信じるこのできない者同士がチームメイトでは、支え合うことができせん。日頃から信頼して、調子を落としたメンバールカバーする強い気持ちがない

く高校生の姿が書かれています。私は、この『ツルネ』に登場するマサさんがとても印象に残っています。マサさんは、弓の楽しさもつら

「ツルネー風舞高校弓道部」

綾野ことこ著（KAEスマ文庫）

いました。ですが、この本を読んで弓道にとって、チームワークは特に団体戦でも大切なものだと思います。団体戦では、お互

ければ勝てないのです。この『ツルネ』は、弓道を通して立ちほだかる試練をもがきながらも乗り越え、仲間との絆を深めてい



さも苦しさも知っていて、そして今なお弓関係で失敗することがあるところが、完璧じゃなくて人間味があって、私はとても好きになりました。そんな人間味のあるマサさんが、弓道にかける思いがそれぞれ違う風

す。『ツルネ』を読んで、たった一回の読書で私の弓道に対する考えが変わりました。これからも読書を通して、いろいろな人の人生に触れていきたいと思いま

舞高校の生徒に指導をしていくことで、みんなの気持ちが一つとなり強くなっていくシーンを読んで、とても気持ちが高ぶり